

【公報種別】特許法第 17 条の 2 の規定による補正の掲載

【部門区分】第 1 部門第 2 区分

【発行日】平成24年3月15日(2012.3.15)

【公開番号】特開2010-264143(P2010-264143A)

【公開日】平成22年11月25日(2010.11.25)

【年通号数】公開・登録公報2010-047

【出願番号】特願2009-119336(P2009-119336)

【国際特許分類】

A 4 7 B 77/02 (2006.01)

【F I】

A 4 7 B 77/02

【手続補正書】

【提出日】平成24年1月30日(2012.1.30)

【手続補正 1】

【補正対象書類名】特許請求の範囲

【補正対象項目名】全文

【補正方法】変更

【補正の内容】

【特許請求の範囲】

【請求項 1】

長尺材を枠組みした骨組みとなるフレームを有するキッチンキャビネットであって、
前記フレームにおける後面側に配置されている長尺材は、壁面の所定高さ位置に固設されたブラケットに掛止可能に構成されている
ことを特徴とするキッチンキャビネット。

【請求項 2】

前記ブラケットは、
壁面へ固定する固定片と、該固定片の上端から前方へ突出する載置片と、該載置片の前端で立ち上がる立上片を備えている
ことを特徴とする請求項 1 に記載のキッチンキャビネット。

【手続補正 2】

【補正対象書類名】明細書

【補正対象項目名】全文

【補正方法】変更

【補正の内容】

【発明の詳細な説明】

【発明の名称】キッチンキャビネット

【技術分野】

【0001】

本発明は、キッチンキャビネットに関するものである。

【背景技術】

【0002】

従来、この種のキッチンカウンターとして、壁面に固定したブラケットに、シンクと調理器を備えたカウンター本体を載置した構造のものが特許文献 1 に開示されている。

また、特許文献 2 には、壁に固定したハンガーに、カウンター本体の後側に設けた取付片を引っ掛けて係止させる構造が開示されている。

また、特許文献 3 には、四角柱状の骨組みに、天板を載置した構造の台所装置が開示されている。

【先行技術文献】

【特許文献】

【0003】

【特許文献1】特開平11-127991号公報

【特許文献2】実開昭60-154089号公報

【特許文献3】特開昭60-12014号公報

【発明の概要】

【発明が解決しようとする課題】

【0004】

上記特許文献1、特許文献2、特許文献3に開示されている構造を組み合わせたとしても、軽量化したキッチンキャビネットを壁掛け式にする構成は発想できないが、キッチンキャビネットを壁掛け式にしようとする、強度の大なる大型のブラケットが必要となり、施工が困難なものになってしまうという新たな問題点がでてくる。

【課題を解決するための手段】

【0005】

本発明は、壁掛け式で設置できるキッチンキャビネットの提供を目的とし、この目的の少なくとも一部を達成するために以下の手段を採った。

本発明のキッチンキャビネットは、長尺材を枠組みした骨組みとなるフレームを有するキッチンキャビネットであって、

前記フレームにおける後面側に配置されている長尺材は、壁面の所定高さ位置に固設されたブラケットに掛止可能に構成されている

ことを要旨とする。

【発明の効果】

【0006】

本発明のキッチンキャビネットは、骨組みとなるフレームを有し、このフレームを構成する長尺材を、壁面の所定高さ位置に固設したブラケットに掛止することで、フレームを壁面に取り付けることができ、壁掛け式のキッチンキャビネットの設置が可能となる。

【0007】

また、本発明のキッチンキャビネットにおいて、前記ブラケットは、壁面へ固定する固定片と、該固定片の上端から前方へ突出する載置片と、該載置片の前端で立ち上がる立上片を備えているものとすることもできる。

こうすれば、フレームの後面側の長尺材をブラケットの載置片上に載せると、前側にブラケットの立上片が配置されるため、フレームがブラケットから外れることがなく、ブラケットを介し良好にフレームが壁面に支持される。

【図面の簡単な説明】

【0008】

【図1】キッチンキャビネットの設置完成状態の斜視図である。

【図2】キッチンキャビネットの骨組みとなるフレームと、遮蔽部材の分解斜視図である。

【図3】フレームを構成する前面側部長尺材12と縦枠材18aと上部連結長尺材14aの連結部分の拡大図である、

【図4】前面側部長尺材12と縦枠材18aと上部連結長尺材14aの連結前の分解図である。

【図5】壁面に固設したブラケットにフレームの長尺材を掛止した状態の要部断面拡大構成図である。

【発明を実施するための形態】

【0009】

次に、本発明を実施するための形態を実施例を用いて説明する。

図1は、システムキッチンの設置状態の斜視構成図であり、システムキッチン1は、複数の引出し3, 3, 3を備えたキッチンキャビネット2の上面に、カウンター4が設けられ、このカウンター4には、水栓6を備えたシンク5と、コンロ7が設けられている。

また、図 1 において、図中 8 は、引出し 3 の下方の前板 10 の底側に設けられた遮蔽部材であり、図中 9 は、側面に取り付けられた側板である。

【0010】

このキッチンキャビネット 2 は、骨組みとなるフレーム 11 を有し、このフレーム 11 と遮蔽部材 8 の分解図を図 2 に示す。

フレーム 11 は、金属製の角パイプ状の複数の長尺材を一体状に枠組みして軽量化されており、前面側上部長尺材 12 と前面側下部長尺材 15 の左右端が縦方向の縦枠材 18a, 18c に連結され、また、後方側の後面側上部長尺材 13 と後面側下部長尺材 16 の左右端が縦方向の縦枠材 18b, 18d に連結されて、縦枠材 18a, 18b 間には、上端側に上部連結長尺材 14a が連結され、下端側に下部連結長尺材 17a が連結されている。また、縦枠材 18c と縦枠材 18d 間には、上端側に上部連結長尺材 14b が連結され、下端側には下部連結長尺材 17b が連結されて枠組みされている。

【0011】

図 3 には、前面側上部長尺材 12 と縦枠材 18a と上部連結長尺材 14a の連結部分の拡大図を示し、図 4 には、連結前の分解図を示す。

縦枠材 18a は、外側の外板部 180 と内側の平行な内板部 181 の一端側が外直交板部 182 でコの字状に一体化されており、外直交板部 182 と平行に内直交板部 183 が設けられて、縦枠材 18a は略角パイプ状に形成されている。

この縦枠材 18a の外板部 180 には上下方向に間隔をおいて、ネジ 31 の頭部より大径の大径孔 184, 184 が貫通形成されており、内板部 181 の大径孔 184, 184 と対向する位置には、ネジ 31 の頭部より小径の小径孔 185, 185 が貫通形成されている。

また、内直交板部 183 にも、ネジ 31 の頭部より大径の大径孔 186 が貫通形成されており、外直交板部 182 の大径孔 186 と対向する位置には、ネジ 31 の頭部より小径の小径孔が形成されている。

【0012】

一方、角パイプ状の前面側上部長尺材 12 の内周底側には締め付け孔部 120 が形成されており、また、角パイプ状の上部連結長尺材 14a の内周側の左右には締め付け孔部 140, 140 が形成されている。また、前面側上部長尺材 12 の下方に配置されて縦枠材 18a に連結される幕板材 24 の内周底側にも締め付け孔部 240 が形成されている。

【0013】

縦枠材 18a の大径孔 184 に外側からネジ 31 を入れて、ネジ 31 を小径孔 185 に通し、ネジ 31 を締め付け孔部 120 に締め付けてゆくことにより、前面側上部長尺材 12 がネジ 31 により縦枠材 18a に締め付け固定されるものである。また同様に、ネジ 31 を大径孔 184 から小径孔 185 を通して締め付け孔部 240 に締め付けることで、幕板材 24 を縦枠材 18a に固定することができる。

また、直交する内直交板部 183 の大径孔 186 にネジ 31 を入れて、ネジ 31 を外直交板部 182 の小径孔に通し、ネジ 31 を締め付け孔部 140 に締め付けてゆくことにより、上部連結長尺材 14a を縦枠材 18a の外直交板部 182 に固定することができる。

【0014】

この縦枠材 18a と他の縦枠材 18b, 18c, 18d は同様な構造であり、縦枠材 18b にネジ 31 を介して後面側上部長尺材 13, 後面側下部長尺材 16, 上部連結長尺材 14a, 下部連結長尺材 17a をそれぞれ連結固定することができる。また、縦枠材 18c にネジ 31 を介して前面側上部長尺材 12, 前面側下部長尺材 15, 上部連結長尺材 14b, 下部連結長尺材 17b をそれぞれ連結固定することができる。また、縦枠材 18d にネジ 31 を介して後面側上部長尺材 13, 後面側下部長尺材 16, 上部連結長尺材 14b, 下部連結長尺材 17b をそれぞれ連結固定することができる。

【0015】

なお、フレーム 11 には、縦枠材 18a, 18c と平行状に角パイプ状の仕切り縦枠材 19, 19, 19 が内側に間隔をおいて縦方向にそれぞれ設けられており、また、後方側

の縦枠材 18b, 18d 間にも平行状に仕切り縦枠材 19, 19 が設けられており、前方側および後方側の各仕切り縦枠材 19, 19, 19 の上端および下端には、それぞれ前後方向に仕切り前後枠材 20, 20, 20 が連結固定されている。

【0016】

また、前面側下部長尺材 15 から後面側下部長尺材 16 に向かって前後方向に水平に延びる補強枠材 21, 21 が複数本底側に設けられており、この補強枠材 21 と平行状に前後の仕切り縦枠材 19, 19 間に複数のレール材 22, 22 が設けられて、骨組みとなるフレーム 11 が形成されている。

【0017】

このフレーム 11 は、壁面 W に予め固設した、例えば 2 個のブラケット 25, 25 に掛止して壁面 W に取り付け施工できるものである。

壁面 W の所定高さ位置に水平な基準線 R を設け、この基準線 R に沿って左右に間隔をおいて 2 個のブラケット 25, 25 をそれぞれネジ 30 を用いて壁面 W に固定することで、2 個のブラケット 25, 25 は水平状に壁面 W に固設されるものである。

【0018】

この各ブラケット 25 は、図 5 に拡大断面図で示すように、ネジ 30 により壁面 W に固定される固定片 26 の上端に、前方側へ略水平に突出する載置片 27 が一体形成され、載置片 27 の前端に、上方へ一体状に立ち上がる立上片 28 が形成されたものである。

なお、ブラケット 25 の固定片 26 には、ネジ 30 を通す通し孔 26a が形成されている。

【0019】

このように予め水平な基準線 R に沿って水平状に 2 個のブラケット 25, 25 を壁面 W の所定高さ位置に固設しておき、この状態で、フレーム 11 を持ち上げて、フレーム 11 の後面側上部長尺材 13 を、ブラケット 25, 25 に掛止することができる。

掛止状態では、フレームの後面側上部長尺材 13 が、図 5 に示すように各ブラケット 25 の載置片 27 上に載置され、この状態で、載置された後面側上部長尺材 13 の前面にブラケット 25 の立上片 28 が立ち上がるため、フレーム 11 は前側にずり落ちることがなく、良好にブラケット 25, 25 を介して壁面 W に取り付けられる。

【0020】

なお、ブラケット 25, 25 は水平状に固設されているため、フレーム 11 をブラケット 25, 25 に掛止することで、フレーム 11 は水平状に壁面 W に支持されることとなり、ブラケット 25, 25 に掛止するだけでフレーム 11 は水平状となり、面倒な底面全面に亘る水平出し作業は不要となる。

【0021】

なお、フレーム 11 をブラケット 25, 25 に掛止した状態で、フレーム 11 の前面側下部長尺材 15 或いは補強枠材 21, 21 に予め設けられている複数のアジャスターボルト 23, 23 をそれぞれ高さ調節して、各アジャスターボルト 23 の下端を床面 F に当接させ、複数のアジャスターボルト 23, 23, 23 を介し、フレーム 11 の重量を床面 F で支持することができる。

なお、フレーム 11 の後面側上部長尺材 13 或いは後面側下部長尺材 16 は別途ビス等を用いて壁面 W に更に強固に固定させることもできる。

【0022】

このようにして壁面 W に水平状にフレーム 11 を取り付け、このフレーム 11 の上面にカウンター 4 を取り付けて、更にシンク 5 およびコンロ 7 を取り付けることができ、更にフレーム 11 内の空間内に、前方側へ引出し可能に引出し 3, 3 を組み付けることができ、更にフレーム 11 の前面下部に前板 10 を取り付け、フレーム 11 の底側前部に遮蔽部材 8 を嵌め込んで、フレーム 11 の底側と床面 F 間の隙間及び複数のアジャスターボルト 23, 23 をこの遮蔽部材 8 で良好に隠蔽させることができる。

なお、遮蔽部材 8 は、フレーム 11 の底側前面を全域に亘り遮蔽することのできる横長の前面片 8a と、この前面片 8a の左右端側に後方側へ延びる側面片 8b, 8b が一体

形成されたものを用いることができる。

【 0 0 2 3 】

このように本例では、長尺材を枠組みした骨組みとなるフレーム 1 1 を備えているため強度が大であり、軽量のキッチンキャビネット 2 とすることができ、しかも、壁面 W に水平状に 2 以上のブラケット 2 5 , 2 5 を予め固設させておけば、このブラケット 2 5 , 2 5 にフレーム 1 1 を掛止させて、フレーム 1 1 を水平状態に壁面 W に設置することができ、従来のような水平出し作業が不要となり、また、遮蔽部材 8 を底側に嵌め込んで床面 F との隙間を良好に隠蔽させることができ、壁掛け式のキッチンキャビネット 2 を容易に施工することができるものとなる。

【 符号の説明 】

【 0 0 2 4 】

- 1 システムキッチン
- 2 キッチンキャビネット
- 3 引出し
- 4 カウンター
- 5 シンク
- 7 コンロ
- 8 遮蔽部材
- 1 0 前板
- 1 1 フレーム
- 1 2 前面側上部長尺材
- 1 3 後面側上部長尺材
- 1 4 a , 1 4 b 上部連結長尺材
- 1 5 前面側下部長尺材
- 1 6 後面側下部長尺材
- 1 7 a , 1 7 b 下部連結長尺材
- 1 8 a , 1 8 b , 1 8 c , 1 8 d 縦枠材
- 1 9 仕切り縦枠材
- 2 1 補強枠材
- 2 2 レール材
- 2 3 アジャスターボルト
- 2 5 ブラケット
- 2 6 固定片
- 2 7 載置片
- 2 8 立上片
- W 壁面
- F 床面